

産金地の風にいだかれて涌谷を散策しましょう！



公式観光PRキャラクター
城山の金さん

町花の桜と涌谷町が東大寺の大仏に使われた日本初の産金地であることを象徴した「風は優しく黄金(こね)持ち」なキャラクターです。

※コースを見やすくするため、涌谷町域の一部を割愛して掲載しています。

A コース

みちのく黄金山めぐり

1 黄金山産金遺跡(国史跡) 涌谷字黄金山ほか
奈良東大寺の天平の大仏に塗られた黄金山の金は、聖武天皇によって、わが国最初の産金と讃えられました。史跡内には延喜式内黄金山神社をはじめ天平の仏堂跡・大伴家持の万葉歌碑・天平の昔から今日なお砂金を産する黄金沢等があります。

2 追戸横穴墓群(町史跡) 小塚字追戸沢
古墳時代末期につくられた有力者の横穴墓で、追戸から中野地区には100基以上あるとみられます。このうちA地区9基の横穴墓が史跡公園として整備され、見学することができます。奥行き10mの大型横穴墓や赤く彩色された横穴墓もあります。調査で出土したトンボ玉などの玉類は天平ろまん館で、土器類は町立史料館で展示しています。

3 籠峯寺 (正月行事は県指定民俗文化財) 籠峯字神楽岡
籠峯山頂(標高236m)に観音堂、白山権現社を中心に江戸時代には24の宿坊で形成していた天台宗の一山寺院。源義家・慈覚大師・大伴駿河麻呂・坂上田村麻呂・西行等にゆかりの寺伝を有し、黄金山神社とともに古代以降中近世を経て今日に至るまで、涌谷の歴史と文化に深い関わりをもって来た名刹です。正月行事の白山祭も貴重な祭礼として知られています。

4 長根貝塚(国史跡) 小里字長根
宮城県の内陸部で最大級の淡水産馬蹄形貝塚で、縄文時代の早期から晩期まで長期にかけて営まれた縄文の「ムラ」です。縄文海進によって周囲の環境が海から沼へと徐々に変化した歴史から、縄文の人々と自然の関わりをよく示す遺跡です。出土品は町立史料館で展示しています。

B コース

社寺めぐり

5 光明院 字長柄町
涌谷伊達氏の遠祖武石胤盛(たけいしたねもり)(光明院殿)の位牌を安置する浄土宗の名刹。胤盛は源頼朝の奥州合戦に父千葉常胤のもとで従軍して戦功をあげ、論功行賞として宇田・伊理の3部を与えられました。光明院は乾元元年(1302)邑主胤盛のもとで伊理に開基しましたが、のち天正19(1591)年涌谷に移されました。

6 妙見宮(現神明社) (拝殿は県有形文化財) 涌谷字日向町
涌谷伊達氏の始祖千葉氏以来の氏神。初代伊達元宗に旧領の伊理から移されて城内に祀られました。4代宗重の時に現在地(塩釜台という)に祀り、5代宗元が元禄10~11年(1697~8)に現拝殿(旧本殿)を造営しました。現本殿(享和3年・1803の建築)におさめる家形厨子とともに元禄期の貴重な遺構です。

7 涌谷伊達家墓所(町指定) (見龍廟は県有形文化財) 涌谷字龍測寺
涌谷伊達氏・伊達氏歴代の位牌所で臨済宗花園妙心寺派の名刹。墓所内には4代伊達安芸宗重を祀る見龍廟以下5棟の霊屋と6代夫人より15代までの邑主と夫人の墓石群が計18基並んでいます。仙台藩の一門として藩内に偉容を誇る墓所です。見龍廟と御門前に据えられた石造物(五重塔・水盤・霊石)は県指定有形文化財です。なお、見龍廟を除く4棟の霊屋は町指定有形文化財です。

8 滝不動院 小塚字桜清水
安永風土記に文明2年(1470)春海上人の勧請とあります。瀧澤寺境内山崖に懸る滝の真下、池の中に安置された自然石上に不動尊像が右手に剣、左手に素(なわ)を持って火焔の中に立つ尊容が崇敬の念を抱かせます。

9 西光寺 (山門は町有形文化財) 小里字不動
小里の山ふもとに東面して寺を構える真言宗の古刹。山門の薬師門は、江戸中期の建築とみられています。規模、材料ともにすぐれ、もともとは涌谷要害内の門の1棟ではないかといわれ、宿老千石家の薬師門と共に町指定有形文化財です。客殿の右後方に聖徳太子像を祀る太子堂。その手前には高さ1.8mの古碑があり、寺の古い歴史を今日に伝えています。

天平産金以来1260有余年の時を超えた感動と発見がいっぱい!!

おすすめコース

おすすめコース(A・B・C・D)は普通乗用車を対象としたコースです。バス等の大型自動車では進入できない場所がございますので予めご了承ください。



C コース 涌谷巨理・伊達家の歴史めぐり

10 涌谷城跡・町立史料館 涌谷字下町
江戸時代、遠田郡を中心にこの地域一帯を治めた仙台藩一門2万3千石を擁した涌谷伊達氏の要害跡。町を一望する江合川の東岸沿いの高台にあり、今日は県北唯一の桜の名所「城山公園」です。公園の南端にある町立史料館では、涌谷伊達氏関係の資料を中心に、町の歴史を紹介しています。

11 涌谷伊達家墓所(町指定)・見龍寺 涌谷字龍測寺
涌谷伊達氏・伊達氏歴代の位牌所で臨済宗花園妙心寺派の名刹。墓所内には4代伊達安芸宗重を祀る見龍廟以下5棟の霊屋と6代夫人より15代までの邑主と夫人の墓石群が計18基並んでいます。仙台藩の一門として藩内に偉容を誇る墓所です。見龍廟と御門前に据えられた石造物(五重塔・水盤・霊石)は県指定有形文化財です。なお、見龍廟を除く4棟の霊屋は町指定有形文化財です。

12 妙見宮 涌谷字日向町
(現神明社拝殿は県有形文化財)
涌谷伊達氏の始祖千葉氏以来の氏神。初代伊達元宗に旧領の伊理から移されて城内に祀られました。4代宗重の時に現在地(塩釜台という)に祀り、5代宗元が元禄10~11年(1697~8)に現拝殿(旧本殿)を造営しました。現本殿(享和3年・1803の建築)におさめる家形厨子とともに元禄期の貴重な遺構です。なお、本殿と長床は町指定有形文化財です。

13 日枝神社・伝巨理元宗墓 大崎町田尻字大貫山
日枝神社はもと山王権現社と称しました。巨理元宗(伊達元宗)は天正19年(1591)子の重宗と共に、伊達政宗によって巨理郡巨理から遠田郡の涌谷に移されました。元宗は初代、重宗は2代の涌谷邑主です。元宗の墓所が日枝神社境内にあり、社前参道石砌の五本杉のある場所に葬られたと伝えられています。

14 祇劫寺・伊達定宗墓 大崎町田尻字大貫宿
祇劫寺は加護坊山(224m)の北麓にある臨済宗の名刹です。京都花園妙心寺の金嶺和尚(小塚字北沢の菅原家の出身)の開山です。見龍寺5世住職の石水和尚は金嶺和尚の弟子です。涌谷邑主3代定宗は慶長11年(1606)に伊達姓を許され伊達一門に列しました。晩年祇劫寺に隠居して山水を楽しみ、そこで死去しました。本堂仏壇に定宗と夫人の木像を安置し、墓は夫妻並んで寺西の境内にあります。

15 巨理美濃守重宗墓(美濃守様御廟) 下郡字十文字
重宗は父の元安斎元宗とともに伊達政宗の覇業を軍功をもって補佐した武將群像の1人です。父元宗とともに巨理より涌谷に移され涌谷2代目の邑主として城下町の建設に尽力しました。夫人相馬氏と並んで山神社の北足下の王壇と呼ばれる場所に眠っています。

D コース

博物館・美術館めぐり

16 くがね創庫 字新町裏
古い米倉庫を改修し、芸術・文化の発表の場を創りました。ホールでは、町内で活動する様々なサークルの展示会が催されており、ギャラリーでは染織作家の山岸登美氏の作品コレクションを常設展示しています。

17 涌谷城跡(町史跡)・町立史料館 涌谷字下町
江戸時代、この地域一帯を治めた仙台藩・門涌谷伊達氏の要害跡。町を一望できる高台にあって、県北唯一の桜の名所「城山公園」です。公園の南端にある町立史料館では、涌谷伊達家関係の資料を中心に、町の歴史を紹介しています。太鼓堂は町指定の有形文化財です。

18 天平ろまん館 涌谷字黄金山
天平21年(749)、陸奥守百濟王敏福は小田郡より黄金が産出したことを報告。900両(約13kg)の金を献上しました。聖武天皇は、これを国帑として以来の産金と大いに喜び、国家事業であった東大寺大仏の造営を完成へと導きました。この産金地の中心地が、国史跡黄金山産金遺跡で、天平ろまん館では、天平産金関係の資料を展示、紹介しています。

おすすめコース以外にも見どころいっぱい!

19 石仏の嘉暦四年の碑 籠峯字石仏
嘉暦4年(1329)の巨碑で阿彌陀三尊の種子(梵子)で継連に薬研形し、脇侍が控えています。亡き父母の追善供養のために建てられました。善男善女はこの石仏(いしほとけ)のあたりから念佛を唱えて籠峯寺にお参りしたといわれています。

20 華立壇の宝徳元年碑 籠峯字華立
籠峯寺の西大門の手前の左手、小山上にある高さ2m余、幅2m弱の巨碑です。宝徳元年(1449)初冬(10月)の造立銘をもつこの碑は阿彌陀三尊の種子を日輪の中に彫り、左上に法華経の偈があります。籠峯寺の高僧が中心となり、出家した男女、俗人百数十名が結集し三界万霊のために建てたものです。

21 御前姫神社の板碑群 猪岡短台字大谷地
鎌倉末室町初期の年号のある板碑22基を含む39基で、旧道川沿いの御前姫神社にあります。もとは、河川の堤防の中にありましたが、堤防工事の際、現地に移され、大切に保存されています。中世の大谷地の開闢史上貴重です。

22 春海上人の碑 小塚字中野
安永風土記書出に滝石不動(瀧沢寺)の南西4丁余(約450m)に春海上人墓所を書出しています。碑は高さ約1.8m、幅1.3mで、蓮台の上に地藏菩薩立像を彫刻し、左側に願主春海・文明13年(1481)辛丑9月8日と刻しています。中世室町期の地藏信仰の盛行がしのぼれます。

23 佐々木家住宅 涌谷字黄金山
仙台藩一門、涌谷伊達氏の家中武士住宅です。屋敷の東辺中央に棟門、やや西北に主屋、その上手東北に書院塼敷の広間を配し、周辺に庭園を造り、板蔵や厩舎等を建てています。要所に巨木がある屋敷地は、藩政期の武家の広大な構えを良好に今日に伝えていきます。

佐々木家住宅の主屋